

木造住宅・木造建築物等の整備促進に関する調査・普及・技術基盤強化 成果報告書

事業の名称	木造軸組工法による住宅の現場管理手法の構築と普及活動
事業者情報	事業者名：特定非営利活動法人建築技術支援協会 事業担当者名：福本雅嗣 総括補助 阿部市郎 連絡先：03-5689-2911
補助事業の区分	木造住宅・建築物等の整備推進に関する ① 調査を行う事業 ②普及を行う事業 ③ ③技術基盤強化を行う事業 以上の①から③の中から該当するものを選択し、○をつけて下さい。
1. 事業の概要 [事業の目的] 住宅は多くの部品部材により構成され、住宅全体の顧客に対する責任は住宅供給者にある。そのため住宅供給者の品質管理は、供給される部品、部材、外注部材、プレカット製品、等多岐多種に亘る構成材を組み合わせることで適時適切な工事を推進管理して完成引渡しをすることが工事現場管理業務であるが、通常小規模な工務店では一人の現場工事管理者により行われているのが実情である。かかる実態から小規模工務店において組織的な技術スキルアップ教育は困難である。 近年住宅品質確保促進法、長期優良住宅認定等推進され住宅品質に係る要求品質は飛躍的に向上してきているが、これらを理解して推進する為には小規模工務店従事者への長期優良住宅を見据えた基本的な工事管理業務の教育支援は必要不可欠である。 [事業の実施内容] 木造住宅工事管理テキスト及び工事チェックシートの作成と工事管理講習会実施 本事業では住宅の材料、部品、工事等の要求性能を理解し、品質管理された優良な住宅が供給されることを目指して、長年住宅産業界において技術管理を推進してきたベテラン技術者のノウハウを生かして、工務店技術者の実務に即した工事管理マニュアルテキストと現場で即利用できる工事管理チェックシートを執筆作成した。 工事管理テキストは木造軸組工法における 2 階建て住宅を切り口にして、敷地調査から完成引渡しまでの建築工事設備工事を含む各工程の基本要件と管理業務を詳述した。（別添工事管理テキスト A4 版 53 ページ） 工事管理チェックシートは各工事のチェック事項とチェック方法を詳述し見開きで現場の状況写真を添付して、巻末に長期優良住宅対応の参考設計図 12 枚を作成添付した。尚本図書は建築主の工事履歴図書としても活用できるように執筆作成した。（別添工事管理チェックリスト A4 版 128 ページ）（事業実施体制） <pre> graph TD A["(事業実施主体) NPO 建築技術支援協会"] <--> B["テキスト執筆者 戸建住宅部会会員"] B <--> C["工事管理講習会実施 東京・大阪・名古屋"] A <--> D["テキスト印刷・製本 300 部"] B <--> E["アドバイザー ベテラン技術者"] </pre>	

※本報告書は各ページ毎に 1 つの項目を記載することとし、全 3 ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は 2 枚を限度に本報告書に添付すること。

事業の名称	木造軸組工法による住宅の現場管理手法の構築と普及活動		
-------	----------------------------	--	--

2. 事業で得られた成果

【木造住宅工事管理テキスト・チェックシート】の作成と工務店向け講習会の実施

東京

実施日

平成 23 年 3 月 8 日（火） 13：30～16：30

実施場所

文京学院大学 S51 講義室

受講定員

70 名

受講申込者

159 名

受講者

136 名

大阪

実施日

平成 23 年 3 月 15 日（火） 13：30～16：30

実施場所

大阪大学中ノ島センター 7 階 A2 講義室

受講定員

50 名

受講申込者

67 名

受講者

58 名

名古屋

実施日

平成 23 年 3 月 16 日（水） 13：30～16：30

実施場所

東邦ガス今池ガスビル 7 階 A 会議室

受講定員

30 名

受講申込者

34 名

受講者

26 名

出前講習会

実施予定

平成 23 年 3 月 17 日 10：00～12：30

会場

東京八重洲ホール

住宅産業塾（優良なホームビルダーの集まり）会員 30 名に対して実施の予定であったが東日本大震災のインフラ不良の為参集できず、テキストの配布を行った。

テキスト配布・・・講習会 250 部、テキストのみ配布 30 部、講師用 20 部 計 300 部

実施に当たり、出来るだけ多くの工務店の現場管理担当技術者に参加してもらえよう早期に会場を確保し周知徹底をはかり、業界紙・業界誌に講習会広報掲載、住宅関係団体会員への DM と講習会の広報に努め、建築技術支援協会のホームページへの掲載とホームページ上よりの受講申し込み受付および FAX での受付を行った結果、全て定員オーバーで特に東京は 2 倍以上の受講申し込みがあり広い会場に変更して実施した。

尚、出席できない受講申込者よりのテキストの申し込みが相次いでおり、配布を行った。

講習会出席者は極めて熱心且つ真摯に受講しており、長期優良住宅に取り組む熱意を感じられたが、自社だけでは工務店として技術的および対応体制が困難であるところが多く、長期優良住宅の工務店用の実務的な資料は出版等されていないので、今回の講習会の長期優良住宅に対応する工事管理マニュアルおよびチェックシートは即自社業務に応用できるツールを提供したことになり、自社工事管理体制の見直しと優良住宅への取り組みの契機になったと考えられる。

今回の講習会実施により、当初東京大阪名古屋 3 箇所で 150 名の受講者を予定していたが、結果的には 220 名が受講しテキスト配布を加えると、工務店の優良住宅取り組みの直接的な支援成果を上げることが出来た。



東京会場 文京学院大学 S51 講義室



大阪会場 大阪大学中ノ島センター 7 階講義室



名古屋会場 今池ガスビル 7 A 会議室

※本報告書は各ページ毎に 1 つの項目を記載することとし、全 3 ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は 2 枚を限度に本報告書に添付すること。

事業の名称	木造軸組工法による住宅の現場管理手法の構築と普及活動
3. 今後の展望及び成果の普及方法 【今後の展望】 今回の講習会を実施して判ったことは、有料の講習会は、ここ数年ジリ貧状態で参加者が減少しており工務店はなかなか参加しないが、今回のように受講料テキスト共無料で、且つ日ごろの業務に即役立つ講習会は仕事を休んででも参加するということである。 会場では講義終了時に受講者全員から熱い拍手を受けるという状況で、このような実務的な講習会が望まれていたことが実感された。 また、会場で終了時にアンケートを収集し、また直接意見聴取したが、今回は工事管理シートの各工事の記入例を入れた指導的なテキストを配布し、これを応用して自社でフォーマットの作成を勧めたが、多くの受講者から記入例のほかに即自分で記入できるフォーマットの配布或いは購入を希望された。 工務店の実情はそこまでブレークダウンしなければいけないということを悟らせられた。 更に、判明したことは、住宅性能表示と長期優良住宅認定基準制定時に、公的な講習会が実施されたが、それから時間が経過しており、今回は長期優良住宅の工事管理に付随して、性能表示基準の内容は既に理解されていることを前提に短く解説したが、終了後むしろ基準そのものの詳細な講習会を要望された。 制度発足時に講習に出席した者より新しい世代が加わり、再度性能表示基準と長期優良住宅認定基準の解説が必要な事態になっていることが判明した。 【成果の普及方法】 今回は東京大阪名古屋各 1 回の実施であり、工事管理の質の向上のための講習は緒に付いた状態であるにすぎない。 今後、このような講習会を全国規模で実施できるようにすることが、長期優良住宅推進と住宅の品質管理向上のために必要であると考えられる。 また、長期優良住宅の供給に取り組みたい工務店に対しては、工務店が自社で作成しなくても日常的に業務に使用できる工事管理シートその他の実用的なフォーマットを作成し、リーズナブルな価格で有償でも配布することが出来れば、工務店の要望にこたえて普及促進になるであろう。 また、前述したように性能表示基準、長期優良住宅認定基準のごく判りやすい無料の講習会を再度工務店向けに全国的に実施する必要があると勘考する。 弊協会は工務店が長期優良住宅に取り組む為のハードルを更に下げることが出来るような働きを、今後も推進してまいりたいと考えている。	

※本報告書は各ページ毎に 1 つの項目を記載することとし、全 3 ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は 2 枚を限度に本報告書に添付すること。